

聖書:第一列王記9章1～14節

説教:この宮は廃墟となる

2020年11月22日 礼拝メッセージ

聖書:ヨシュア記4章1～9節

説教:この石は永久に記念となる

はじめに

今日、このあと臨時の役員会が開かれ、皆様から提出していただいた表決書によって墓碑建設の可否を決めようとしています。聖書には、お墓のデザインはこうなさいというようなことは書かれていません。私たちの文化や考え方にの範囲で自由に決めることができるということでしょう。私たちの国籍は天にありますといわれているのですから、立つ鳥跡を濁さずと言うことわざのとおりにお墓は作らずに散骨ということでもまったく問題ない。しかし一方、残された家族の心はそう簡単に割り切れるわけではありません。しっかりしたものを据えてお墓にしたいとも考える。聖書ではどうなのか。据えるとするならば、そこのはどんな意味があるのか。今日の箇所から考えてまいります。

## 1 ヨルダン川を渡る

### 1) ヨシュアがリーダーとなる

まず今日開いている箇所の背景から説明します。モーセは神の召しをいただいてエジプトに遣わされ、そこで苦しんでいたイスラエルの民を引き連れて脱出します。モーセは当初、まっすぐに約束の地カナンを目指すつもりでしたが、度重なるイスラエルの神に対する不信の行為によって、四十年間、荒野をさまようことになってしまいます。その四十年を経て、これからカナンの地に入るのだという間際になってモーセは亡くなってしまふ。それでモーセを長年支えてきたヨシュアが次のリーダーに立つことになり、彼の指揮の下で約束の地カナンに入ることになった。それがヨシュア記の始まりです。

### 2) 困難と決断

ヨシュアがリーダーとなって最初に取り組みなければならなかった課題は、ヨルダン川を越えて向こう岸に渡ることでした。今は、水の量が少ないので川幅が狭くて川を渡ることはそれほど難しくないように見えます。しかしヨシュアの時代はそう

ではなかった。特にこの季節は水の量が増えて川幅が広がっている。大人でも大変なのに、子ども、女性、老人、体の不自由な人たち、そして家畜、これらをすべて安全に渡らせなければならない。すぐに思いつくのは橋を架けることです。ところが主はなんと語ったか。1章2節。「わたしのしもべモーセは死んだ。今、あなたとこの民はみな、立ってこのヨルダン川を渡り、わたしがイスラエルの子らに与えようとしている地に行け。」橋を架けるとすれば、かなりの時間が必要です。しかし主の命令は、「いますぐに川を渡れ」なのです。いったいどうやって渡るか。

仮に安全に川を渡ることができたとしても、その川向こうにはエリコという町がひかえていて、門を堅く閉ざしています。あの町を攻め落とすとすると戦争になる。そのとき、どのようにして非戦闘員を安全な場所に逃がすことができるか。右にも左にも逃れる場所がない。後ろは渡ってきたばかりの川です。つまり逃げ場が全くない。これは軍事作戦としてもっとも避けなければならない状況です。

### 3) 水がせき止められる

ヨシュアは信仰者でしたから主の命令に従わなければならないと思う一方、前に進むべきかかなり悩んだはずで。そんなとき、エリコに向かった偵察隊が戻って来た。エリコに住むラハブという女性が神に立ち返り、イスラエルに救いを求めている。そのような報告でした。これを聞いてヨシュアは、主がすでに神がエリコを占領してくださっていると確信することができ、ヨルダン川を渡る決断をします。

増水して川幅が広がっているヨルダン川に向かって、契約の箱をかついだ祭司たちが先頭を進み、川の水際まで来ました。そうすると、突然上流で川がせき止められ、川底が現れた。その川底を歩いて、全員が無事に向こう岸に渡り終えることができました。

## 2 十二の石を据えた

### 1) 子どもたちが尋ねたとき

そのときヨシュアは何をしたのか。それが今日の箇所になる。4章1～3節。「民全員がヨルダン川を渡り終えると、主はヨシュアに告げられた。『民の中から部族ごとに一人ずつ十二人を取り、その者たちに命じよ。『ヨルダン川の真ん中、祭司た

ちが足をしっかりととどめたその場所から十二の石を取り、それらを携えて渡り、あなたがたが今夜泊まる宿営地に据えよ。』」

なぜそんなことをするのか。それについてヨシュアは6, 7節でこう説明しています。「それがあなたがたの中で、しるしとなるようにするためだ。後になって、あなたがたの子どもたちが『この石はどのようなものなのですか』と尋ねたとき、あなたがたは彼らにこう言いなさい。『ヨルダン川の水が主の契約の箱の前でせき止められたのだ。箱がヨルダン川を渡るとき、ヨルダン川の水はせき止められた。この石はイスラエルの子らにとって永久に記念となるのだ。』」

水がせき止められて川底が現れたヨルダン川を渡って、約束の地カナンに入った経験がない子ども世代になったとき、十二の石を見ることによって、あのかたがどのようにしてイスラエルを救ってくださったのかを語って教えるきっかけになる。そのためにいま石を据える。この石は、救われたばかりの人たちにはすぐには役立つものではないかもしれない。しかし、何十年も経って、子ども孫、もっと遠い将来の子孫たちのために、彼らが神の救いを覚えて記憶に刻むことができるようにと、いま石を据えるのだということです。

## 2) それだけなのか

車で走っているとときどき、お地藏さんが道のわきに建っていて、花が飾られているのを見ることがあります。ここでかつて交通事故が起き、事故で亡くなった方のご家族が記念として建てたのでしょう。それを見ながら思うわけです。ご家族がどれほどに悲しんだのだろうか。車を運転する者として事故だけは絶対に起こしてはいけぬ。そんな決心をします。

ヨシュアが据えさせた十二の石もこれと似ているところがあります。後の時代の人たちが、この石を見て、先祖たちはどのようにして救いを体験したのかを思い起こすきっかけとなる。しかし、ただそれだけなのでしょう。

## 3 主の十字架を覚える

### 1) 永久に記念となる

なぜそんなことを言うのか。7節にこうあるからです。「この石はイスラエルの子らにとって永久に記念となるのだ。」「永久」と書かれているところに目を留めます。いまから三千五百年前に生きたヨシュアの時代から今に至るまで、そしてこれからもずっと、それが「永久」という意味です。増水し

ていたヨルダン川を、イスラエルの民が全員無事に渡るというできごとでしたから、確かに「永久に記念となる」と言われるのはわかります。では聖書の他の箇所はどうか。聖書にはいろいろの奇蹟が記されているのですから、「永久に記念となる奇蹟」が他にあってもよいはず。ところが調べてみると、一箇所を除いてまったくでてこない。それほど特殊な表現だということは何かありそうです。

### 2) 「この人の記念として語られる」

その一箇所とはどこか。マタイの福音書26章12, 13節です。イエスがシモンと呼ばれる人の家で食事をしていたら、ある一人の女性がやってきて非常に高価な香油をイエスの頭に注ぎます。これを見ていた弟子たちが、「何のために、こんな無駄なことをするのか」と言って怒りだすのをご覧になったイエスはこう言われました。「この人はこの香油をわたしのからだに注いで、わたしを埋葬する備えをしてくれたのです。まことに、あなたがたに言います。世界中どこでも、この福音が宣べ伝えられるところでは、この人がしたことも、この人の記念として語られます。」

自分の罪にずっと苦しんでいたこの女性は、あるときイエスから悔い改めによる罪からの救いの福音を聞き、こんな自分でさえも神は罪を赦してくださる、そのような救いの喜びを経験し、感謝を現すためにこのようなことをしたのだろうと推測されます。でも不思議なのは、イエスはこの女性が私の埋葬の備えをしてくれたと語ったところです。イエスが間もなく殺されるということ、この女性がどこまで知っていたのかは判然しません。でもイエスは、「この人の記念として語られる」とまで高い評価を与えてくださるのです。

### 3) 十字架の救いを証しする

ヨシュアが据えた十二の石とこの女性の話を比べてください。二つの出来事は、時代も状況も違いますからまったく関係がないように見えます。しかし、どちらも主の救いという所では共通点があります。そして、「記念する」ということばがこの二つ箇所に使われる。他の箇所にはでてこない。ヨシュアが据えた十二の石、それはやがてイエス・キリストが成し遂げてくださる十字架のみわざを指し示しているようなのです。

思いだしてください。あの十二の石はどこにあったのでしょうか。9節。「これらの十二の石はヨルダン川の真ん中で、契約の箱を担いだ祭司たちが

足をとどめた場所にあったもので、ヨシュアがそれらを積み上げたのである。それらは今日までそこにある。」

川の底にある石ならどの石でもよい、といのではない。契約の箱をかついだ祭司たちが足をとどめた石です。それは何を意味しますか。イスラエルの人々がヨルダン川を渡るとき、神は何をしていたのか。もちろん、上流で川の水をせき止めておられた。それだけですか。神はどこにおられたのか。祭司たちの足に踏まれていたのではないですか。人々はこの石を踏んで、無事に約束の地に入ることができた。神はへりくだり、人々の足で踏まれながら救いへと導かれた。それは、やがて十字架におつきになる主の姿そのものです。だから永久の記念となると言われたのではないか。

私たちはなぜ墓石を建てるのか。このことからもう一度覚えさせられます。教会の墓石を見て私たちの子どもたち、孫たちがやがて尋ねるだろう。まだ主を知らない人たちが墓石を見て尋ねるだろう。どうしてここに石が建っているのか。そうしたらこう答える。「ここに眠っている人たちは、主イエスの十字架を通して罪から救われ、イスラエルの民がヨルダン川を渡って約束の地に入ったように、彼らも天の御国に迎えられることを信じて葬られ、いまは主の再臨を待っているのです。」ヨシュアは主の救いを世に証しするために十二の石を建てました。私たちもこの信仰に倣いたいと願います。